

感染性角膜炎の診断・治療の

	細菌性角膜炎	真菌性角膜炎
臨床経過・症状	1) 背景に角膜外傷・コンタクトレンズ装用 2) 急激な発症 3) 眼痛・充血・視力低下・眼脂などの症状が同時に出現 4) 耐性菌でなければ治療に対する反応は比較的良好 ⇒第1章I 第2章I-2	1) 背景に以下の要因あり ① 点眼薬の長期使用：抗菌薬，副腎皮質ステロイド薬 ② 植物による角膜外傷 ③ 免疫不全宿主：糖尿病，膠原病など 2) 緩徐な発症 3) 自覚症状は菌種によりさまざま 4) 治療抵抗性 ⇒第1章I 第2章II-1-3) 2-3)
↓	↓	↓
臨床所見	1) 角膜の化膿性病変：浸潤・膿瘍・潰瘍など ① グラム陽性球菌：円形～類円形で限局性 ② グラム陰性桿菌：輪状膿瘍 2) 二次的炎症反応：結膜充血・結膜浮腫・前房内細胞・前房蓄膿・角膜後面沈着物 ⇒第1章II-1b)c)	1) 角膜病巣 ① 糸状菌：境界不鮮明な羽毛状(白色～灰白色) ② 酵母菌：境界比較的鮮明な類円形 2) その他の特徴的所見 ① 糸状菌では endothelial plaque, 前房蓄膿を時に認める ⇒第2章II-1-4) 2-4)
↓	↓	↓
病原体検出	1) 直接検鏡 ① グラム染色 ② ギムザ染色 2) 分離培養 ① 血液寒天培地 ② チョコレート寒天培地 ③ その他，想定する病原体に応じて適切な培地を選択 ⇒第1章III-1, 2a)b) IV-1 Appendix IV	1) 直接検鏡 ① グラム染色 ② ギムザ染色 ③ ファンギフローラ Y [®] 染色 2) 分離培養 ① サブロー寒天培地 ⇒第1章III-1, 2a)b)c) IV-2 Appendix I, V
↓	↓	↓
治療	1) 初期治療 ① 抗菌点眼薬頻回投与 ② 重症例では抗菌薬全身投与(点滴) 2) 継続治療 ① 反応良好→初期治療を続行 ② 反応不良→分離菌や薬剤感受性を考慮して治療を変更，真菌感染も考慮 ⇒第3章I	複数の薬剤を複数のルートで投与 1) 点眼：ピマリシン，アゾール系，キャンディン系など 2) 結膜下注射(重症例)：アゾール系など 3) 全身投与：アゾール系など ⇒第3章II

フローチャート

アカントアメーバ角膜炎	角膜ヘルペス
<p>1) 背景にコンタクトレンズ装用, 汚水の飛入 2) 非常に緩徐な発症 3) 充血, 眼痛が高度 4) 治療抵抗性</p> <p style="text-align: right;">⇒第 1 章 I 第 2 章 III-1</p>	<p>1) 健常者にもみられる再発性角膜炎 2) 基本的に片眼性 3) 発症誘因: 熱発, 精神的ストレス, 紫外線曝露, 免疫抑制など 4) 充血・視力低下はあるが眼痛は軽度</p> <p style="text-align: right;">⇒第 1 章 I</p>
↓	↓
<p>1) 病期進行を見分けることが肝要</p> <p>① 初期 i) 放射状角膜神経炎 ii) 偽樹枝状角膜炎 iii) 角膜上皮内・上皮下浸潤</p> <p>② 移行期/成長期</p> <p>③ 完成期 i) 輪状浸潤 ii) 円板状浸潤</p> <p>2) 病期によらず高度の毛様充血</p> <p style="text-align: right;">⇒第 2 章 III-2</p>	<p>1) 3つの基本病型</p> <p>① 上皮型 i) 樹枝状角膜炎 ii) 地図状角膜炎</p> <p>② 実質型 i) 円板状角膜炎 ii) 壊死性角膜炎</p> <p>③ 内皮型</p> <p>2) 角膜知覚低下</p> <p style="text-align: right;">⇒第 1 章 II-1a), 2 第 2 章 IV</p>
↓	↓
<p>1) 直接検鏡</p> <p>① グラム染色 ② ギムザ染色 ③ ファンギフローラ Y[®]染色</p> <p>2) 分離培養: アカントアメーバ用寒天平板培地 塗布液として</p> <p>① yeast extract glucose (YG) 液 ② 納豆上澄み液 ③ 大腸菌浮遊液</p> <p style="text-align: right;">⇒第 1 章 III-1, 2a)b)c) IV-3 Appendix I, VI</p>	<p>1) ウイルス分離培養 2) 蛍光抗体法 3) 免疫クロマトグラフィ法 4) polymerase chain reaction (PCR) 法</p> <p style="text-align: right;">⇒第 1 章 III-2d)e) IV-4, 5 Appendix II, III, VII, VIII</p>
↓	↓
<p>三者併用療法</p> <p>① 病巣搔爬(角膜搔爬) ② 抗真菌薬および消毒薬の点眼 ③ 抗真菌薬全身投与</p> <p style="text-align: right;">⇒第 3 章 III</p>	<p>1) 上皮型 アシクロビル眼軟膏</p> <p>2) 実質型・内皮型 アシクロビル眼軟膏 + 副腎皮質ステロイド点眼薬 難治例ではアカントアメーバ鑑別も考慮</p> <p style="text-align: right;">⇒第 3 章 IV</p>